

新型コロナ禍における朝日新聞の「三密」関連報道の内容分析ーヘルスケアコミュニケーションの観点からー

徐 寧

北海道大学 大学院国際広報メディア・観光学院
国際広報メディア専攻

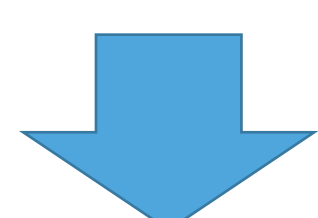


未来社会のあるべきかたち

- ◆ 公共衛生を支える情報社会へ
- ◆ 健康コミュニケーションで行動変容促進
- ◆ 多層連携による包摂的健康危機対応

コロナ発生以来、「三密」が新型コロナウイルス感染症への対応を特徴づける概念として広く認識されている。

三密という抽象化の概念は、マスメディアでより具体的で実践的な行動指針の提示が必要である。



研究目的

三密回避に関する行動変容を促進するために、新聞がどのようなヘルスコミュニケーションを行ったのか？



研究対象：朝日新聞 2020年4月1日～7月31日 三密計1548件の記事

分析手順：先行研究が提唱した行動変容を促すヘルス・コミュニケーションの原則に基づいて、記事分類を行う

行動変容を促すヘルス・コミュニケーションの原則		
行動変容を促す報道	数字を使う	人々の評価や行動を示す数字
	ストーリーを使う	行動をとった人の体験談、病気が気になってしまった人の体験談、社会の人々の声に言及する
	メリット・デメリットで感情に訴える	行動するメリットや行動しないデメリットを伝える
	シミュレーションしてもらう	行動計画や行動目標など状況や行動を具体的にイメージできる情報を伝える
	コンフリクトを使う	避難所、経済回復、保育園など三密回避と矛盾する状況を伝えることで、複雑な社会環境に適応した感染予防対策の重要性を認識させる。

行動変容を促す報道は全体三密報道のおよそ半分

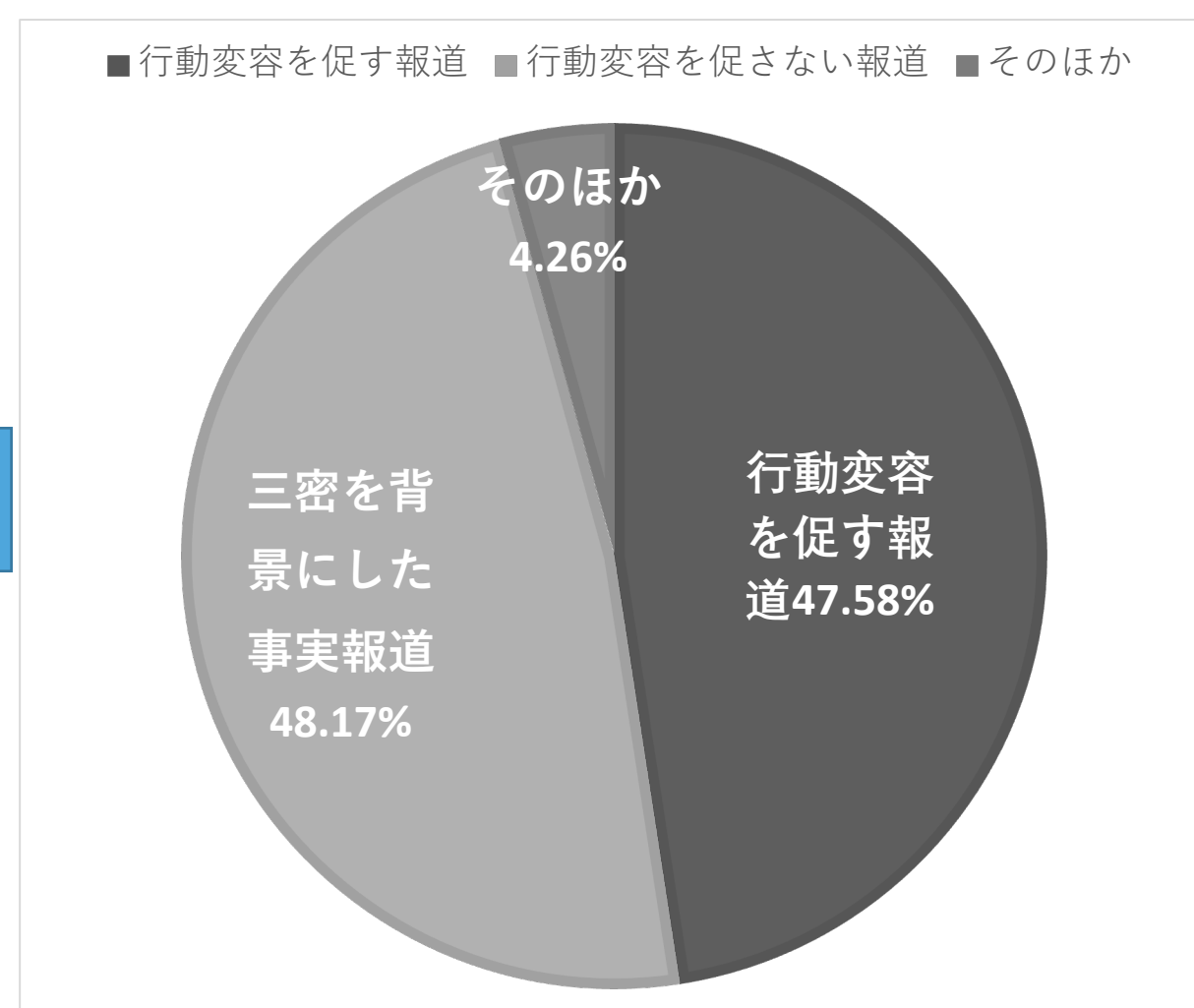


新聞報道は単なる情報提供だけでなく、具体的な行動を促すヘルスコミュニケーションが重視されるようになった状況を反映している

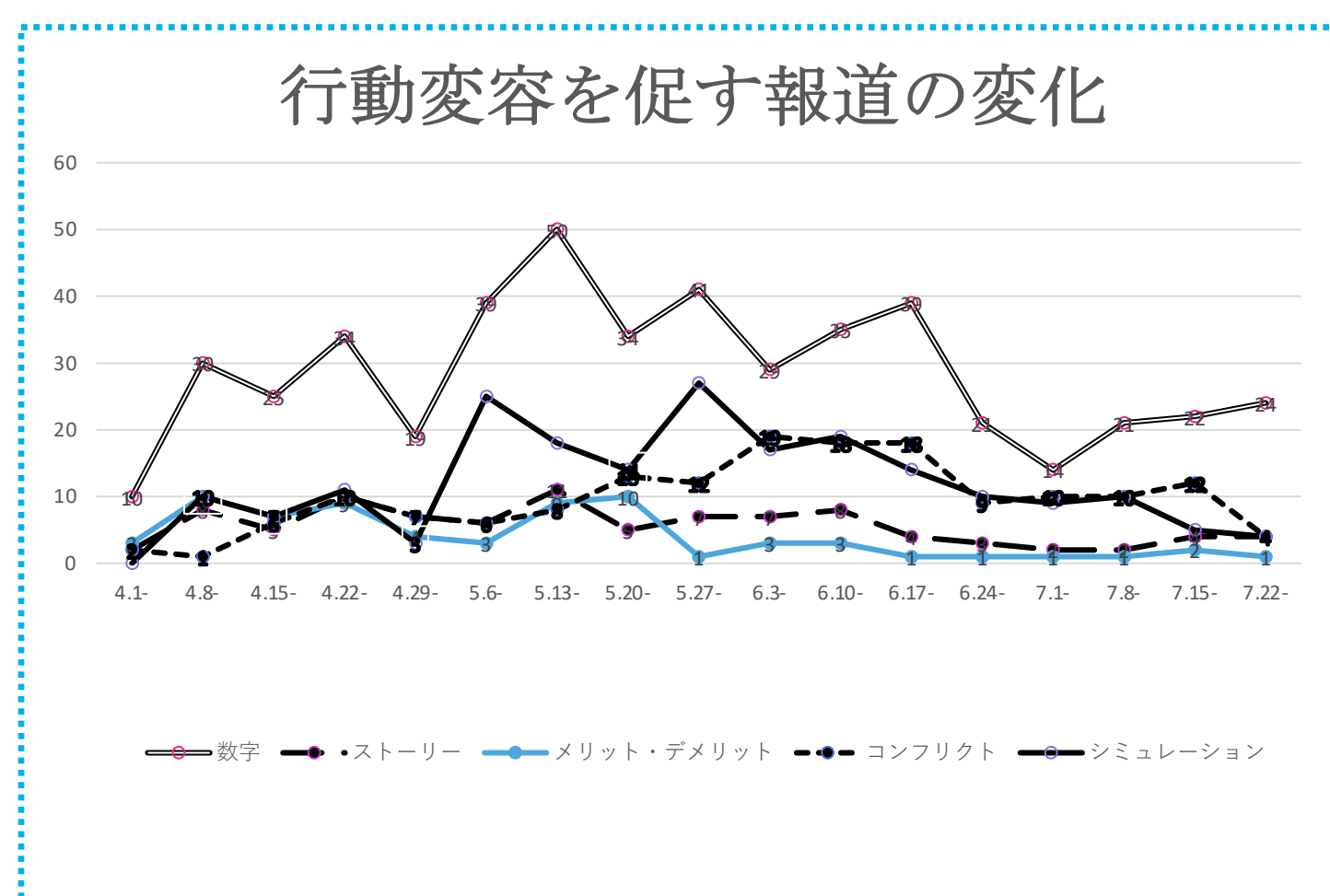
「シミュレーション」「コンフリクト」「数字」
＞
「ストーリー」「メリット・デメリット」



感情的態度と認知的態度のうち、認知的な面からヘルスコミュニケーションを行ったものが多い



三密報道の変化の動向と当時のコロナ下の社会状況とが繋がっていた



第一次緊急事態宣言が実施：
三密概念の定着：「数字を使う↑」可視化
↓
豪雨や台風など災害の発生：
三密回避の矛盾：「コンフリクト↑」葛藤
↓
GO TO トラベル事業の開始：
三密状況の常態化：「シミュレーション↓」
対応力の低下